

1 はじめに

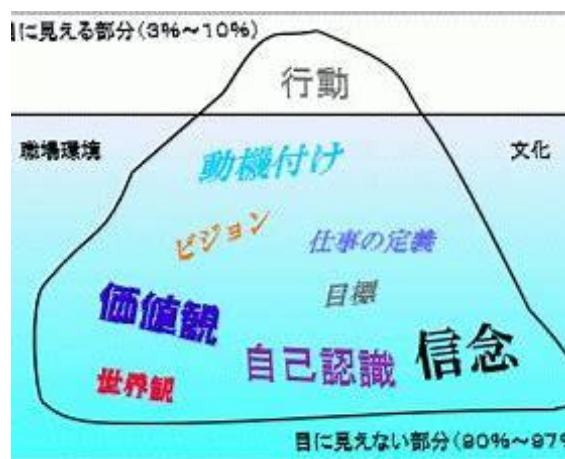
今回は AFS より講師の方2名が来校し、講演をしてくださった。講演の目的としては、国際社会の分野で活躍している方の話を聞くことで、異文化や異なる価値観を知り、国際的な視野で物事を見たり考えたりすることの大切さを理解することである。

2 AFS とは

AFS は異文化学習の機会を提供する世界的な教育団体である。交流国は100か国以上に及び、理念に共感し活動を共にするボランティアの方々とともに、多様な文化・価値観の人々と「共に生きることを学ぶ」活動を継続している。

3 講演内容

皆さんはアンコンシャスバイアスという言葉をご存じだろうか。アンコンシャスバイアスとは自分自身が気づいていない、ものの見方や考え方の歪みや偏りのことである。講演では集合時間を例にとり、「集合時間より早く到着するべきだ」という考え方は日本に住んでいるから当たり前な考え方なのであって、他の国ではそれをおかしいと感じる可能性がある」と話してくださった。このように私たちの生活の中では、無意識的な関連付けが日常的に行われており、異国と交流する場合にはそのような目に見えない部分にふれる機会も多くなる。これを左に示したようなアイスバーグモデルを使って説明してくださった。



それに関連して、今回の講演で最も注目すべきは1992年10月17日に留学中の高校生が銃で撃たれ亡くなった事件であろう。今回の講演に際し、被害者である服部剛丈君のご両親が本校生徒に向けてメッセージを送ってくださった。服部君の事件においても日本とアメリカの常識の違いが大きな要因となっており、今後グローバル化が進んでいく中で、このアンコンシャスバイアスを意識して国際交流をしていくことが大切なカギとなるだろう。

4 まとめ

これからの時代を生きていく生徒たちにとって、国際交流は非常に重要になってくるだろう。今回の講演で、異国と交流するためには相互理解が欠かせないということを生徒たちも強く意識したようである。これからも講演会を通じて国際交流について考える機会を作っていきたい。